

(様式第4号)

上田市都市計画審議会 会議概要

1 審議会名	第24回上田市都市計画審議会
2 日時	令和5年1月26日(木) 午後1時30分から午後4時15分まで
3 会場	上田駅前ビルパレオ 2階会議室
4 出席者	高木会長、池田副会長、松尾委員、中村委員、宮下(勝)委員、青木委員、高野委員、相川委員、國枝委員、宮下(正)委員、塚原様(代理)、坪田様(代理)、村山様(代理)、中山委員、清住委員 計15名
5 行政側出席者	
【都市建設部】	三浦部長
【都市計画課】	山浦調査計画担当係長、村田調査計画担当係長、宮入景観緑化係長、竹内主査、東城主任、沓掛主事
【ごみ減量企画室】	山口参事、佐藤室長、尾崎主任
【上田地域広域連合ごみ減量化推進室】	橋詰室長、篠原補佐
6 公開・非公開	<input checked="" type="checkbox"/> 公開 ・ <input type="checkbox"/> 一部公開 ・ <input type="checkbox"/> 非公開
7 傍聴者 1人	記者 3人
8 会議概要作成年月日	令和5年1月30日
協 議 事 項 等	
1 開 会 (挨拶：三浦都市建設部長)	
2 会長・副会長の選出 (高木 直樹 会長、池田 福慈 副会長)	
・ 委員より「事務局案は」の声	
・ 事務局案を提示	
・ 委員全員が「異議なし」。事務局案のとおり、高木直樹会長、池田福慈副会長を選任	
3 議 事 (進行：高木会長)	
(1) 議事録署名人の選出	
・ 中村委員、相川委員を指名	
(2) 上田市都市計画審議会の概要	
・ 資料に沿い、山浦調査計画担当係長より説明	
(3) 調査審議	
【議案審議第1号】	
資源循環型施設の建設計画に係る中間報告並びに都市計画決定に係る今後の予定について	
・ 資料に沿い、山浦調査計画担当係長から都市計画決定に係る事項を説明。	
その後、橋詰室長から、施設建設の概要等について説明。	
(委 員) 今日、この場で何かを決めることはあるのか。	
(事務局) 本日の議案は調査審議ということで、現在の進捗状況を共有させていただいたものである。お気付きの点があればご指摘いただきたい。今後の審議会では深掘りして審議いただき、最終的な「都市計画決定」にあたり、案件が妥当かどうかを判断いただくのがこの審議会の位置付けである。	
(委 員) 2点質問したい。1点目は、施設計画に処理能力が144t/日と記載があるが、現在の上田、丸子、東部の各クリーンセンターの合計処理能力が270t/日である。144t/日とした理由は何か。	

2 点目として、公害防止基準のうち、自主基準値が法規制値より低く設定されているが、その根拠は何か。

(事務局) 1 点目の処理能力は、将来の人口ビジョンとごみ減量の予測に基づき、144t/日の能力があれば処理可能と判断している。また、地域で発生する災害廃棄物も含めて処理可能としている。

地元の皆様との協議の中で、可能な限りコンパクトな施設にしてほしい、地域を通行するごみ収集車の量を減らしてほしいなど、要望を受けている。このような地元の皆様からのご要望にできる限りお応えしていくということも踏まえ、この処理能力とさせていただいた。

2 点目の公害防止基準の自主規制値については、現在の確立されたごみ処理の技術などを踏まえ、可能な限り低い値で規制値を定めた。また、恒常的にごみ処理をしていく上で、環境にも影響を及ぼさないことも考慮した。

(委員) 3 センターが統合されるということは、全域から小さな区域にごみが集中するということだ。ごみ収集車の通行量はどのように予測しているか。

もう 1 点、周辺の土地評価額への影響はどのように予測しているか。

(事務局) ごみ収集車の搬出入ルートは、上田大橋から古舟橋の間とし、上田大橋側から約 100 台、古舟橋側から約 80 台、計 180 台程度を想定している。地元の皆様は、生活道路を収集車が通行することを心配されているが、幹線道路から堤防道路へ通行するよう検討している。堤防道路の整備・拡幅についても千曲川河川事務所と協議を進めている。

2 点目の土地評価額について、地元の皆様も施設建設にあたり評価額の下落を心配している。ごみ焼却時の余熱を利用した地域施設として、地元の皆様には老朽化している「アクアプラザ上田」の整備について提示をしている。それを通じて周辺地域の振興を図っていく中で、公園緑地を整備することも検討している。これからのまちづくりに資するようなものにしていきたいと考えている。

(委員) 180 台のごみ収集車とは現在の数字か。

(事務局) 180 台は施設建設時の予測通行量で、ごみの減量化等により現在の台数より少なくなる。

(委員) 地元の方は、「ごみ収集車が増えたな」と思うことはないか。

(事務局) 現状の上田クリーンセンターの状況から増えることはないと考えている。先程の説明のとおり幹線道路を通った搬入ルートの指定をする予定である。

審議結果

特段の意見は無し

【議案審議第 2 号】

有機物リサイクル施設の建設計画に係る中間報告並びに都市計画決定に係る今後の予定について

・資料に沿い、山浦調査計画担当係長から都市計画決定に係る事項を説明。

その後、佐藤室長から、施設建設の概要等について説明。

(委員) 基本協定と公害防止協定の概要についてはどうか。

(事務局) 地元の皆様に資料を示して説明を進めてきた。基本協定については、生活環境影響調査の結果や地域振興策などを盛り込み、誠意を持って対応をする内容としていきたい。公害防止協定は施設しゅん工の直前となる令和 8 年度中に締結する予定だが、施設稼働に伴う公害防止基準値等の内容を盛り込むことで検討している。

(委員) 2 点質問したい。1 点目として、丸子地域は除雪が遅いと思われるが、降雪時は収集車の通

行についてどのように対策するか。水路が痛んでいる箇所も見受けられる。また、周辺道路の整備や収集車の通行量はどのように検討しているか。

2点目として、施設規模が長野県との協議の結果、5t未滿となった場合、都市計画審議会の審議は不要とあるが、どこが代わって審議するようになるのか。

(事務局) 生ごみの出し方、収集は現行の可燃ごみと同様で考えているが、ごみ収集車の台数は日に5~10台と想定しており、そこまで大きな影響はないと考えている。道路整備についても、現況の道路で対応可能と考えている。

施設規模が5t未滿となった場合については、施設周辺の自治会長等の皆様で組織している調整会議により進めていく。

(委員) ごみの分別については、地域によって意識の差があるように感じる。その点もPRしてほしい(回答は不要)

(委員) 2点質問したい。

1点目として、生ごみや牛ふんの運搬時における悪臭は数値として把握しているか。

2点目として、堆肥の生産量が350t/年となっているが、これが世間に流通した際に人々に買っていただけるかリサーチをしているのか。

(事務局) 悪臭については、資料に記載の数値は施設の敷地境界で測定したものである。運搬時にも十分気を付けていくが、対策として、ごみが車外に出ない専用のごみ収集車を利用したり、収集の時間帯も午前中の早い時間に収集する体制を整えていきたい。地元の皆様からも数々の意見をいただいていることから、しっかりと対策をしていきたい。

堆肥は、生ごみに隣接する牛舎の牛ふんを混ぜることで、より性能の良いものにしていきたいと考えている。地元からも期待の声が多くあるため、地域内の循環の観点からも実用化を進めていきたいが、流通する中で評判が上がるようになれば有価で販売することも考えている。

(委員) 少しでも参考になればとの思いから堆肥の有効活用について情報共有をする。

好事例としては、山形県長井市の取組があり、学校が主体に入っており、子どもたちが食べる給食の材料に堆肥を活用することでごみの減量や分別の動機付けをしている。上田市内においては「上田農と食の会」があることから、連携してはどうか。

(事務局) 堆肥については、地元自治会の説明会を通じて関心が高いと感じている。地元の方へは一定程度の量を無料で配布することも提案している。市の農政部局にも相談し、堆肥の有効活用について検討する予定である。

(委員) 堆肥の好循環を生むために、近隣の牧場やワイナリーで堆肥を活用することも手ではないか。また、施設自体に太陽光発電のパネルを搭載して、近隣へ供給できないか。このように地域に還元する仕組みを、この施設から作り出していければよいと感じた。(回答不要)

審議結果

特段の意見は無し

【報告事項第1号】上田市歴史的風致維持向上計画の策定について

- ・資料に沿い、宮入景観緑化係長から説明
委員からの質問は無し

4 閉 会（挨拶：三浦都市建設部長）